

# 「室内環境」投稿規程

平成 10 年 3 月 20 日制定  
平成 12 年 8 月 25 日改正  
(室内環境へ誌名変更) 平成 19 年 4 月 20 日改正  
平成 21 年 4 月 17 日改正  
平成 22 年 2 月 26 日改正  
平成 24 年 6 月 1 日改正  
平成 25 年 10 月 1 日改正  
平成 31 年 4 月 1 日改正  
令和 5 年 1 月 26 日改正  
令和 7 年 1 月 27 日改正

## 1. 総則

- ① 室内環境 (以下本誌と呼ぶ) は、室内環境学に関連した諸分野の原著論文、短報、総説、解説、技術資料、調査資料、用語解説、室内環境学関連情報を出版委員会の審査の上、掲載する。また、出版委員会が原稿執筆を依頼することがある。
- ② 投稿原稿の著者は、1 名以上が本会会員でなければならない。但し、出版委員会が会員外の著者に依頼した場合や承認したときはこの限りではない。
- ③ 投稿原稿は、未発表のものに限る。ただし、以下の場合は例外とする。
  - (a) 学位取得に係る要件として、大学・研究機関に提出された学位論文。
  - (b) プレプリントサーバー上で発表された論文。
  - (c) 学会・会議の発表要旨またはプロシーディングとして発表されたもの。

## 2. 原稿の種類

- ① 原著論文  
独創的研究で得られた新事実や価値あるデータを解析して判明した新知見を公表する論文。
- ② 短報

独創的研究で得られた新事実や価値あるデータを公表する小論文。

- ③ 総説  
室内環境の各分野の研究に関連して、その方面の進歩の状況、現状、将来への展望などを総合的にまとめたもの。
- ④ 解説  
室内環境の各分野の研究に関連して、その方面の進歩の状況、現状、将来への展望などの一部を解説したもの。
- ⑤ 技術資料  
技術的な工夫や改良などで得られた、会員にとって有益な室内環境学に関連するデータを公表するもの。
- ⑥ 調査資料  
現場調査などで得られた、会員にとって有益なデータを公表するもの。
- ⑦ 用語解説  
室内環境学に関する新しい用語や誤解されやすい用語などを解説するもの。
- ⑧ 室内環境学関連情報  
会員にとって有益な室内環境学に関連する情報を紹介するもの。

## 3. 倫理規定

人を対象とする研究報告は世界医師会によるヘルシンキ宣言の精神に則り、厚生労働省が提示する医学研究に関する指針を遵守すること。被験者個人の特定を防ぐため、特定の日付や追跡可能な患者番号、個人が特定できる写真などを含まないこと。また、実験動物を用いた研究報告は各施設の動物実験指針や精神および基準等を遵守して行われたものであること。

## 4. 利益相反

利益相反 (Conflict of Interest : COI) に関する情報開示を行うこと。投稿原稿の著者は、論文の作成や研究の遂行にバイアスをもたらす可能性がある

る利益関係（金銭的・個人的関係など）について記載を行うこと。なお国や自治体から受けた研究費（科学研究費補助金など）は利益相反自己申告の対象には該当しない。

## 5. 原稿の投稿

- ① 原稿は本投稿規程並びに「執筆要領」に従って作成しなければならない。これに従っていない原稿は著者に訂正を求められることがある。
- ② 投稿原稿は PDF ファイルに変換し、学会ホームページの「投稿フォーム」から送付する。  
<http://www.siej.org/sub/toukou.html>
- ③ 投稿原稿が審査を経て、掲載決定の通知が届いた後に、最終原稿の PDF ファイルおよび Word ファイルの両方を、学会ホームページの「最終原稿提出フォーム」から送付する。  
<http://www.siej.org/sub/toukou.html>
- ④ 原稿の長さは、図、表等を含む刷り上がりページ数で、「原著論文・総説・解説」の場合には 10 ページ、「短報・技術資料・調査資料」の場合には 5 ページ、「室内環境学関連情報」の場合には 3 ページ、「用語解説」の場合には 1 ページを原則とする。ただし、出版委員会が認めた場合にはこの限りではない。
- ⑤ 原稿は、出版委員長が受け取った日を受付日とする。
- ⑥ 問い合わせ先  
一般社団法人室内環境学会 出版委員会  
電子メールアドレス：shuppan@siej.org

## 6. 投稿原稿の審査

- ① 投稿原稿は、投稿論文の内容によって査読担当委員が、出版委員会が承認した複数の審査員（会員外も含む専門研究者）とともに審査を行い、迅速にその採否を出版委員会が決定する。
- ② 一度提出された原稿は、出版委員会の承諾なしに変更を加えてはならない。

- ③ 出版委員会は投稿原稿について訂正を求めることがある。訂正を求められた原稿は、査読担当委員と相談の上、出来るだけ速やかに再提出すること。

## 7. 著者校正

著者校正は一回だけ行う（初校）。この際、印刷上の誤り以外の字句の修正、あるいは原稿になかった字句の挿入は原則として認めない。校正は、出版委員会が指示した期日までに校正して速やかに返送すること。

## 8. 掲載費用

すべての原稿の掲載料は、学会の負担とする。ただし、別刷代およびカラー印刷を希望した場合は投稿者の負担とし、必要部数とカラー指定箇所を投稿フォームに記入する。

※別刷 1 部あたり 250 円（税抜き）（白黒、カラー、依頼部数に問わず）（10 部以上から）カラー 1 ページあたり 18,500 円（税抜き）。ただし、料金については、予告なく変更になることがある。

## 9. 著作権および報文の転用

- 1) 本誌に掲載された原稿の著作権は本会に帰属するものとする。
  - ① 著者（連名の場合は投稿者）は、原稿の掲載が決定した時点で著作権移譲同意書を出版委員会宛に提出する。
  - ② 著者が自ら著作した報文等を、著者自身が教育、研究、普及等の非営利目的で利用することは妨げない。尚、利用は無償とする。
  - ③ 著者が自ら著作した報文等を、商品パンフレットへの転載など営利目的で利用しようとする場合、利用許諾申請書（別添）に正式印刷前の原稿（商品パンフレット等）を付けて、学会事務局へ提出すること。

- ④ 提出を受けた利用許諾申請書（別添）と正式印刷前の原稿（商品パンフレット等）については、学会事務局と出版委員会において審議し、書面によって許可または不許可を著者へ回答する。
  - ⑤ 事前に本会の書面による許可を得た場合には、本会の出版物にかかる出典を明記しなければならない。尚、③～⑤に関わる申請および利用については無償とする。
  - ⑥ 著者は、自ら著作した報文等を、著者自身のウェブサイト（著者所属組織のサイトを含む）に掲載することが出来る。ただし、本会の出版物にかかる出典を明記しなければならない。
  - ⑦ 第三者が複写複製および転載複製する場合は一般社団法人学術著作権協会に申請する。
- 2) 本会の主催する研究会、シンポジウム等の要旨等についても同様とするが、著作権譲渡承諾書の提出は省略する。

## 10. その他

本規程は、出版委員会の議を経て、追加・変更することがある。

以上

## 執筆要領

### 11. 和文原稿

- ① 和文原稿は常用漢字と現代仮名遣いを用いて、A4用紙に1,100字程度で作成する。
- ② 連続した行番号およびページ番号を原稿内に明記する。
- ③ 和文原稿の刷り上がり1ページはA4用紙2枚程度である。
- ④ 1ページ目には、和文タイトル、和文著者名と所属、英文タイトル、英文での著者名と所属を書く。著者が複数の場合には、氏名の右側

に上付で番号を付記し、それに対応する番号を所属の左側に上付で付記する。

（例）室内花子<sup>1)</sup>、環境太郎<sup>2)</sup>、学会二郎<sup>3)</sup>  
<sup>1)</sup>花園学園大学、<sup>2)</sup>日本環境大学、<sup>3)</sup>株式会社空  
 気環境測定

- ⑤ 原著論文・短報・総説・解説の原稿には、和文要旨と英文要旨を書くこと。その他の原稿については和文要旨と英文要旨を書くことが望ましいが、省略してもかまわない。
  - (a) 和文要旨は500字程度にまとめる。
  - (b) 英文要旨は200語程度にまとめる。題名、著者名、所属機関、同所在地も英文で記す。
  - (c) キーワードは3個以上8個以内とし、和文（英文）の形式で英文要旨の下段に書く。
  - (d) 要旨には、Graphical abstractを1枚まで含めることができる（必須ではない）。Graphical abstractとは、論文の内容を視覚的かつ簡明にまとめた図のことで、表題や説明文は付けない。要旨の下部に組み込む。
- ⑥ 本文中の見出しは、1. 緒言（はじめに）、2. 材料および方法（調査法）、3. 結果、4. 考察、5. 結言（おわりに）、謝辞、利益相反、引用文献とする。なお、実験結果と考察をまとめて「結果及び考察」として記してもよい。中見出し、小見出しは、1.1, 1.2, …, 2.1, 2.2, …などとポイントシステムで書く。大見出し、中見出しの前は1行あける。
- ⑦ 略語をもちいる時は慣例に従い、本文の最初にでてくる箇所で正式の名称のあとに（ ）に入れた略語を付記する。
- ⑧ ローマ字は活字体ではっきり書き、専門用語は学会や文部省で制定されたもの（例えば学術用語集化学編など）によること。外国の人名、会社名などはローマ字で書くことを原則とする。本文中に引用する人名には讚辞を除

き敬称を付けない。

- ⑨ 査読を経て受理された論文には、J-STAGE 公開時に電子付録として高精細画像、動画や音声データ、容量の大きいデータを添付できる。これらのデータは冊子体には掲載されないが、J-STAGE 上で公開される。電子付録は、1 論文につき 5 ファイル、1 ファイルは 80 MB までとする。ファイル形式はほとんどすべてのものに対応可能。電子付録の内容は審査の対象になる。電子付録の添付を希望する場合、論文が受理された後、出版委員会宛にデータを提出する。

## 12. 英文原稿

- (a) 上下左右 3 cm 以上の余白をとり、ダブルスペースで、1 行 72 字で 27 行打つと、約 2.5 枚で刷り上がり 1 ページになる。
- (b) その他の項目は和文原稿の規定を準用する。

## 13. 投稿フォームへの記入

投稿フォームには、和文タイトルと英文タイトルを記述し、必要事項を漏れなく記入すること。また、別刷については、投稿規定 8. に従い記入する。

## 14. 図と表

- ① 「原著論文」と「短報」については、図と表およびそれらの表題や説明などは英文で書く。その他については、図と表およびそれらの表題や説明などは英文と和文どちらでも書いても良い。
- ② 図と表は原稿の最後にまとめ、それらの挿入希望箇所を本文原稿の右欄に明確に示す。
- ③ 「原著論文」と「短報」については、本文中の図表の引用に Fig. 1, Table 1 を用いる。その他については、本文中の図表の引用に図 1, 表 1 (または Fig. 1, Table 1) を用いる。
- ④ 図は原則として刷り上がり基準寸法横幅 6 cm

(半ページ幅) 又は 12 cm (1 ページ) に縮尺されるので、縦横の長さの比、線の太さを選ぶ際には、そのことを考慮する。

- ⑤ グラフは縦軸、横軸で周囲をかこみ、縦軸の説明は下から上へ、横軸の説明は左から右へ、それぞれの軸の中央部に書く。
- ⑥ 著者が希望した場合には、写真や図をアート紙に印刷 (カラーまたは白黒) することができる。ただし、印刷費は著者が負担するものとする。カラー印刷を希望しない場合であっても、原稿のデータがカラーである場合は、J-STAGE 上ではカラーで表示される。しかし、この場合、冊子体では白黒であるため、白黒でも確認できるように注意する。
- ⑦ 単位・記号  
本誌の扱う分野は理学、工学、農学、薬学、医学など広い範囲にわたるので、論文で用いる単位、記号などの形式について厳密な規定はしないが、原則的には SI 単位系を用いる。SI 単位については JIS Z8203 国際単位系 (SI) 及びその使い方を参照すること。
- ⑧ 数式  
(a) 数学的操作を表す記号は次のようにする。  
(例)  
 $\exp(-x), e^{-x}, \log x, \ln x, \Delta x$  又は  $\delta x, dx, f(x), df(x)/dx, \sin x \cos^{-1} x, i$  (虚数単位),  $\partial/\partial r, \text{grad}, \text{div } A$  など
- (b) 数式は特に印刷に便利なようにし、特に文中に書記を挿入するときは  $a/b, \exp(-U/kT)$  のように書く。
- (c) 独立した数式は式 1 行につき本文の 2-3 行分のスペースをとって明瞭に書き、式番号を(1)のようにつける。
- (d) 複雑な式は誤解のないようにし、特に添字は上ツキ、下ツキをはっきりと書く。
- ⑨ 化合物名・化学式  
(a) 本文中で化合物は化学式を使わないで化合物名で書く。化合物の命名は原則とし

て IUPAC 命名法に従い日本語で書く。但し元素は記号で、簡単な無機化合物は化学式で表してもよい。

- (b) 化合物を略記号で表す場合は本文の最初に出て来るところで、正式の化合物名に略記号を付記すること。(例) ジメチルアミン (以下 DMA と略記号を付記すること)。
- (c) 化学反応式の書き方は数式に準じる。

## 15. 利益相反

利益相反に関する情報開示は、本文の最後(引用文献の前)に見出しを付けて記載する。著者全員に利益相反が無い場合は、「本論文に関して、開示すべき利益相反はない。」などと記載をし、利益相反に該当する著者がいる場合は、その著者名とその利益相反について記載する。なお、所属企業等との利益相反は申告不要とする。

(例)

### 利益相反

著者(室内太郎)は、本研究の遂行期間中に A 株式会社より研究費を受領した。そのほかの著者は、開示すべき利益相反はない。

## 16. 引用文献

引用文献は、本文中に上付きで<sup>1)</sup>, <sup>2,3)</sup>, <sup>4-7)</sup>のように記入する。はじめから通し番号で示し、番号順に本文の末尾に一括して次の事項を記載する。

- (a) 雑誌に掲載の論文: 著者名, 題名, 誌名(英文はイタリック体とする), 巻, ページ, 年号。なお、誌名は原則としてその雑誌が略称名として挙げている名称を記載する。

(例)

- 1) 鈴木義浩, 野口美由貴, 山崎章弘, 中井里史: セミアクティブサンプラーによる VOC の捕集と物質移動過程解析, 室内環境, 25, 1-12 (2022).

- 2) 吉田精作: シロアリ防除家屋における精白米中オクタクロロジプロピルエーテル濃度及びその調理過程における消長, 食衛誌, 37, 260-265 (1996).

- 3) Lewis R. G., Fortune C. R., Blanchard F. T. and Camann D. E.: Movement and deposition of two organophosphorus pesticides within a residence after interior and exterior applications, *J. Air Waste Manag. Assoc.*, 51, 339-351 (2001).

- (b) 単行本: 著者名(又は編集者名), 書名, 版数, 出版社名, ページ, 出版年。

(例)

- 1) 植村振作, 山崎昌子: 家庭にひそむ農薬, 三省堂, p.124 (1989).
- 2) Lunau F. and Reynolds G.L.: *Indoor Air Quality and Ventilation*, 2nd Ed., Selper Ltd., London, pp.122-126 (1990).

- (c) 単行本の中の論文: 著者名, 題名, 単行本の書名, 編集者名, 版数, 出版社名, ページ, 出版年。

(例)

- 1) Holst P. A. J.: Bioaerosol related health effects of indoor air. In: *Indoor Air Quality and Ventilation*, Lunau F., Reynolds G. L. eds, 2nd Ed., Selper Ltd., London, pp.122-126 (1990).

- (d) Web サイト: 著者名, サイト名, 発表年, サイト URL, 最終閲覧日。

(例)

- 1) 厚生労働省: 国民健康・栄養調査(令和元年), [https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou\\_eiyou\\_chousa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html) (最終閲覧日: 2022年2月3日)

- (e) オープンアクセスの論文: 著者名, 題名(英文

はイタリック体とする), 誌名, 巻, ページ番号, 年号。

(例)

- 1) Manikkam M., Tracey R., Guerrero-Bosagna C. and Skinner M. K.: Plastics derived endocrine disruptors (BPA, DEHP and DBP) induce epigenetic transgenerational inheritance of obesity, reproductive disease and sperm epimutations, *PLoS One*, 8, e55387 (2013).

- (f) ある雑誌, 単行本が連続した文献番号で引用されるときは, “同上”又は“ibid”とする。著者名は全員記載し, et al.としない。ただし, 総説の場合, 著者名は3名まで記載し, 以下は et al. (日本語の場合は, ら) とする。

以上